

地域再生計画（地方創生道整備推進交付金）事後評価調書

都道府県名	徳島県	事業実施主体	徳島県・三好市・東みよし町	地域再生計画名	「住んでよし、訪れてよし」が体現できるまちづくり計画
計画期間	平成27年度～令和3年度	評価責任者	三好市建設部長 滝本康昌		

①地域再生計画に記載した数値目標の実現状況	指標	基準値		中間目標値		最終目標値		事後評価	達成状況		最終目標値の実現状況に関する評価	
		基準年度	平均	年度	中間実績	基準年度	最終実績		指標総数	達成数		
①地域再生計画に記載した数値目標の実現状況	指標 1	観光地や拠点施設までのアクセス改善	平均 20～50分	H26	平均 17～47分	H29	平均 18～48分	平均 15～45分	R3	平均 15～46分	△	16路線のうち進捗のない基準値路線が3路線あるものの、最終目標値を得た路線が4路線、その他9路線は1～4分の短縮、計画路線全体の平均値としては約3分の時間短縮となっており、観光地や拠点施設までのアクセスは一定の改善効果を得ている。 林道（作業道・林業専用道）整備やそれに連する市道整備、林業従事者の育成などの施策の効果により、目標値を大幅に上回ることができた。林道整備による効果として未間伐地域へのアクセス改善が図られ、また、平成27年度より県産材の更なる増産と利用拡大を図るため新次元林業プロジェクトの取り組みにより、年間素材生産量の大幅な増量となった。 本計画期間での整備により一定の時間短縮は図られたが、他事業予算で整備する区間の一部の路床整備に着手できなかったことから、目標値には到達しなかった。
	指標 2	森林整備の促進 年間素材生産量の増加	80,000㎡	H25	90,000㎡	H29	43,800㎡	00,000㎡	R3	152,800㎡	○	
	指標 2	農産物の販売・集出荷施設までのアクセス改善	平均60分	H26	平均60分	H29	平均60分	平均44分	R1	平均60分	△	
②地域再生計画に記載した数値目標以外の波及効果の実現状況	指標 1	外国人宿泊者数	9225	H26	-	H29	27,791	-	R3	367	○	新型コロナウイルス感染症の影響下もあり、海外からの観光宿泊客が一時的に低下しているが、市道・林道・農道のネットワーク化の推進に伴う、滞在・体験型観光により、今後の回復が十分に見込まれる。 市道・林道・農道のネットワーク化の推進に伴う、移住検討者のお試し滞在増加により、市・町外からの移住者数が平成26年の約20倍以上に増加し地方創生に大きく貢献した。
	指標 2	市・町外からの移住者数	14	H26	-	H29	235	-	R3	330	○	
③事業の進捗状況	事業名		整備量（その他の事業では取組内容）			事業の進捗状況に関する評価						
			計画	中間年度（H・R）	最終実績							
特別措置を適用して行う事業	市町道事業		10,710	3,951	9,226	当初計画期間内に西日本豪雨災害が発災した関係で、2年間の計画延長をして事業を実施してきた。整備量については、9割弱程度の進捗となったが、改良率も着実に上昇しており、今回の整備により一般向け体験型観光交流人口の増加につながると考えている。または地域住民の生活や経済活動を向上させるべく公共施設等へのアクセス改善も図られ、渋滞緩和などにもつながっていると考えている。しかしながら、区域内には通行危険箇所や狭隘箇所が多数あるので、さらなる通行の安全・安心度の向上のため次期計画において整備に取り組む。						
	林道事業		27,400	6,884	17,178	当初計画期間内に西日本豪雨災害が発災した関係で、2年間の計画延長をして事業を実施してきた。整備量については、8割弱程度の進捗となったが、林道整備により今まで森林施業が困難であった地域について充実した森林へのアクセス改善が図られた結果、素材生産量の大幅な増量となった。労務単価や資材単価の高騰及び、作設困難な地形地質等により整備延長は伸び悩んでいるが、次期計画において引き続き林道の整備を進め森林整備の促進を図りたい。						
	広域農道事業		464	171	503	全体延長としては計画を越えて達成しており、農業の生産性の向上、農産物流通の合理化が図られた。また、災害時の避難路としての役割や緊急輸送路を補完する道路としての機能を併せ持つなど、地域にとって欠かすことのできない交通ネットワークが構築できた。						
その他の事業	体験型観光交流メニューの充実		四季を通じた観光の拠点として機能を充実させ、滞在型観光につなげる各種イベントを実施			日本有数の清流吉野川を活かしたラフティング・ウエイクボードや重要伝統的建造物群保存地区に選定されている東祖谷落合地区の古民家で体験型観光イベント及び吉野川ハイウェイオアシスでは夏場に阿波踊り公演を開催、冬場にはLEDの光のイルミネーションや四国酒まつり等年間を通したイベントを実施した。また、2021(令和3)年の宿泊者数は87,449人(参考:三好市84,285人、東みよし3,164人)となっており、コロナの影響により2017(平成29)年158,723人(参考:三好市148,793人、東みよし9,930人)より約55.1%減少した。						
	森林環境保全整備事業		地域材の生産量拡大や木材加工体制の強化を進め、消費拡大や新用途開発、県外等へ販路の拡大			本計画において林道幹線が整備されたことにより、作業道専用道の作設と合わせて連絡が容易となり、高性能林業機械での施業が実施され、木材の生産性が大幅に向上し、近年は林業従事者も増加する傾向が見られる。また、拡大する木質バイオマスの供給体制の整備も進み、多方面において県産材の需要拡大が図られた。						
	とくしま協働の森づくり事業・とくしま農山漁村（ふるさと）応援し隊事業		農山村地域の保全・活性化を図るため、都市住民等との交流促進、県民や企業参加による「協働」の取組みを拡大			とくしま協働の森づくり事業では、地球温暖化対策としてカーボンオフセットの仕組みをモデル化し、事業者及び個人グループの協力により植林等が実施され、森林への関心を深め、気候変動対策に寄与したと考えられる。また、農山漁村応援し隊事業では、三好市及び東みよし町で計44回の活動が行われ、延べ1140名の協働パートナーが様々な地域活動に参加し、地域の住民との交流が生まれるとともに、農山漁村の保全や活性化などが図られた。						
計画外で独自に実施した事業	地域おこし協力隊事業		都市部の若者等が市・町に移住し、地域ブランド化や地場産品の開発・販売・プロモーション等の地域活性化を図る			令和3年度末現在で、三好市4名・東みよし町2名の計6名を雇用。地域資源を生かしたイベントを通じて継続的な情報発信や地域おこしを支援するほか、起業を支援する補助制度の創設や、起業塾の受講等の支援など定住に向けた各種支援を実施している。平成26年度以降の任期終了者のうち8名が定住している。						
	起業創業支援事業		空き店舗等を活用した起業・創業者を支援し地域活性化を図る。			新規創業者等に対して創業費用の一部を補助し、2021(令和3)年度には4件(三好市)の利用があり、空き店舗等の解消による地域の賑わい創出、地域経済の活性化に寄与している。						
④評価方法	評価会議にて最終目標値の評価・検討を行い、結果を決定した。											
⑤事後評価の公表方法	徳島県・三好市・東みよし町ホームページに掲載											
⑥計画全体の総合評価	数値目標については、概ね達成している。特に、素材生産量については林道整備や市道整備による未間伐地域へのアクセス改善により計画を52,800㎡上回り大きな成果が得られ地域林業や木材関連産業の活性化につながっている。また、市町道・林道・農道の一体的整備によるネットワーク化の推進に伴い滞在・体験型観光の促進により、外国人宿泊者数が大きく増加するなど、事業効果はあったものと考えている。											
⑦今後の方針等	地域間ネットワーク整備による地域活性化については、一定の効果があったと考えられるものの、三好地域（三好市・東みよし町）の人口動態は平成27年3月の43,695人から平成30年3月には41,190人（△2,505人）と依然として減少傾向が続いており、地域創生が今後の重要な要因となることから、移住交流事業及び滞在・体験型観光や農林業の振興など地域産業の振興をより一層すすみ、雇用の拡大や安定化による地域創生を図るための方策として、地域間ネットワークの整備を推進する。											